542. 大阪市立大学病院のオーダリングシステム (放射線治療部門)

Hospital Information System in Osaka City University Hospital
(Division of Therapeutic Radiology)

大阪市立大学医学部附属病院 中央放射線部

Osaka City University Hospital Department of Radiology

木村 俊彦
Toshihiko Kimura村上 進
Susumu Murakami長瀬 敏英
Toshihide Nagase椎崎 信彦
Nobuhiko Shiizaki泉 昭生
Akio Izumi

【目的】平成 5 年 5 月 6 日新病院開院に伴い、病院規模でオーダリングシステムの導入が決まった。放射線治療部門でもオーダリングシステムを導入し運用を開始したのでそのシステムを紹介する。

【使用装置】オーダリングシステムは富士通で構成

ホスト：M-770 サブホスト：K-6900 (中央放射線部で管理) 端末：FMR-70 HL 3

【方法】放射線治療の患者の流れは、大きく分けてふたつに分類できる。放射線科を受診し診察、位置決めを行う新規患者と毎日治療を受けに来る治療患者である。この流れをオーダリングシステムに関連付けて新規患者 (図 1) と治療患者 (図 2) として図示する。新規患者の治療依頼は、オープン予約制で各科端末より、○臨床診断名、○TNM Stage、○組織診断名、○治療内容 (今までの)、○治療方針 以上の項目と、受診希望日を入力してもらう。さらに治療依頼内容の詳細を別紙 (治療依頼詳細連絡用紙) に記載し、受診日にカルテに添付し搬送してもらっている。

治療室受付の当日業務は発行業務画面から◎新規患者予定一覧表、◎治療患者一覧表の出力を行う。また新規患者があれば、その患者の治療台帳作成のために治療依頼内容を出し、患者台帳・フィルム袋用のラベル発行を行う。

治療対象となる患者は、診察室で診察を受ける。診察室の端末では、◎治療中診察予約、◎再診予約 (フォローアップ)、◎位置決め予約、◎特殊治療予約の予約画面があり、適宜医師が予約していく。この画面から予約することで、次回患者が受診する前日に、患者カルテとフィルムが治療室に搬送されてくる。

治療を行う患者は位置決め終了後、患者部位別治療計画画面に、各種治療パラメータを入力し、一回線量と総線量を入力することで、カレンダー上に治療予定が作成される。今後の治療はこのデータを元に実施されていく。

治療患者は、毎日受付に ID カードを提出し受付処理する。患者来室情報は、操作室端末に一覧表示される。この中から治療患者を選択し、実施入力すると自動照合記録装置にその患者情報が転送される。転送されたデータをもとに、治療部位のポート番号を選択すると、リニアックがセットアップされる。治療終了後端末で確定入力すれば医事課に治療実施データが送られる。当日治療を行った患者は直接医事課に行き会計処理を行う。

【結論】(利点) ◎治療の医事請求がペーパーレスになった。◎患者の部位別治療予定が容易に把握できる。◎オーダリングシステムと自動照合記録装置のオンラインにより治療業務の流れがスムーズになった。(欠点) ◎患者部位別治療計画画面を管理するのが大変である。